

## 2010「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」成果報告書

出張者：小澤みゆき(慶応義塾大学総合政策学部3年)

出張先：アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ・Hyatt Regency Atlanta

出張期間：平成22年9月28日～10月2日

出張目的：Grace Hopper Celebration 2010 Woman in Computingへの参加及び発表のため

### ・自分の発表に関する報告

「Reading the Air: Combinig Instant Messaging with Real Space」というタイトルで、9月29日の19時から21時までの2時間、ポスターセッションに参加した。ポスターを見に来てくれた人は同世代の学生が多かった。「Reading the Air」という表現に、違和感を持つ人が大半だったが、きちんと説明するとほとんどの人は理解してくれたように思う。わざわざプログラムに載ったabstractを見て、興味を抱いてポスターを見に来てくれた人もいて非常にうれしかった。

具体的な意見として、音量による盛り上がりの検知以外にどういった方法を考えているのか、またその表現方法について多く問われた。自分の発表に関しては英語は文法以外あまり問題ではなく、熱意を持って話せば意外とわかってもらえると感じた。

### ・会期を通しての感想

この会議は今年で10年目で、今年は29カ国から2000人以上が参加、うち半数が学部～博士の学生だった。まず女性を中心とした会議ということで、全体としてWIDE合宿の男女比を180度変えたような感じだった。行く前は正直、ジェンダー／ウーマンリブな色を全面に押し出した感じと想像していたが、全くそうではなかった。キャリアをどう構築していくか、という話の流れで女性であることが出てくることはあったが、あくまでCS分野の研究者／学生／社会人として、ということを皆考えていて、そこに一番好感を持った。（ここは難しく、なかなか言葉では伝わらないかもしれませんが、私が一番勇気づけられたところです）

一口にCSと言ってもとても幅広く、アルゴリズム屋さんから機械学習、モバイル・アプリケーション、ヘルスケア、少数ではあるがインターネット屋さんな人たちもいて、ごった煮だった。英語に関しては、発表は集中すればきちんと聞き取れた。しかしディスカッション形式のセッションや、質疑応答では何が話されているのかわからず聞き取りの力不足を感じた。特に学生による質疑応答がとても活発で、日本からきた自分には少し衝撃的だった。

### ・興味を抱いた発表、感銘を受けた発表

#### 【From Politics to Art: Visualization as a Medium】

MIT Media Lab.でPh.Dを取得し、現在はGoogle Researchで働いているFernanda B. Viegasという方の講演。web上のデータを様々な視点から可視化することの意義について、過去の作品紹介を交えて話していた。最も感動したのは、Web SeerというGoogle検索のsuggestionを用いた作品。他にもwikipediaのヒストグラム可視化、web上の歌の歌詞の可視化など。「楽しくて仕事をしている」とい

う感じが伝わってきて、こういう風になりたいと思わせる人だった。作品やたまたまいからも知性を感じて、そこがとても魅力的だった。

<参考URL>

<http://fernandaviegas.com/>

<http://hint.fm/seer/>

<http://www.fleshmap.com/>

#### 【TGRID: Grid Computing for Computational Problem Solving in a Liberal Arts Environment】

ニュージャージー大学での分散コンピューティングの研究。Jacobsthal functionという数学の関数を用いて、学内にグリッドコンピューティングの環境を構築するというもの。対象OSはLinux, Solaris, Max OS X, Windows。現在はpythonで開発しているが、Javaに移行する予定。

#### 【Oblivious Context Sensitive Communication】

スマートフォンを使ってユーザ同士の位置マッチングを行う研究。Android G1上で開発、公開鍵暗号を使って2人のユーザ同士が落ち合える一番近い場所をプライベートサーチする。タイトル通り、人に知られたくないセンシティブなコンテキストを限られた人とだけどう共有するか、という話（わかりやすい例としてスパイ同士の密会を挙げていた）

#### 【A Mobile-Cloud Collaborative Approach for Context-Aware Blind Navigation】

SWANシステム：モバイルデバイス（Android）を用いた全盲の方のためのナビゲーションシステム。cloud技術（要するにgoogle mapと遠隔のデータベースサーバ）を利用。GPSで位置を測定し、google mapに問い合わせたあと、音情報から交差点の信号の色などを把握しナビゲートするコンテキストウェアネスの研究。tactile interfaceをもつ(?)。プライバシーが今後の課題。

#### 【Emailtime: Visualization on the Temporal Email】

メーラー内のメールアドレス可視化の研究。各アドレスをToでreceive、ccでreceive、自分がsentの3種類に分けて、時系列でプロットしヒストグラムを生成する。いつ、だれからメールを受け取ったかが一目で分かるような仕組み。今後の課題はメールアドレスを複数持っている人の特定。

#### 【HCI Field Trip】

ジョージア工科大学テクノロジーセンターでの見学ツアー型セッション。主にTangible InterfaceやSensor Applicationのデモを拝見した。正直言って、どこかで見たことがあるようなインターフェースの研究が多くて、あまり目新しいとは感じなかった。GPSとセンサを用いて米軍兵士の探索を手助けするというものがあり、軍事研究はあまり知らなかったので興味深かった。

一番面白かったのは、PCやモバイル機器のメニュー欄を音声読み上げする研究。アドレス帳など、アルファベット順に文字が並んでいると画面を見なくてもアルファベットのどのあたりにいるかわかる、というもの。